古墳時代の大刀形製品にかかる覚書

宮 村 誠 二

目次

１．はじめに
２．古墳時代の大刀形製品の概観
３．大刀形製品の消長と特徴
４．おわりに

― 論 文 要 旨 ―

筆者らが発掘調査を担当した滋賀県栗東市の蜂屋遺跡では、調査において大刀形石製模造品が出土した。当該資料については、今後とりまとめる予定の発掘調査報告書のなかで資料の詳細や位置づけ、歴史的評価等を示すつもりだが、そのためには関連資料の把握や先行研究における論説の理解が不可欠である。

そこで、今回は報告書の作成に向けた基礎作業として、古墳時代の大刀形製品について調べることを思い立った。本稿では、先行研究の成果を参考としつつ、大刀形製品の消長を検討し、その特徴について論じた。

古墳時代の大刀形製品には、大刀形木製品・大刀形木製立物・大刀形土製模造品・大刀形埴輪・大刀形石製表飾などがあり、これまでにも先学により各種製品の消長や用途などが検討されてきたが、今回、大刀形製品全般の消長を検討したところ、古墳時代中期に大刀形製品の種類が増加したことを確認でき、当該期に祭祀の場において大刀形製品の需要が高まったことが窺えた。古墳時代中期前葉に築造された三重県宝塚１号墳での大刀形製品のあり方からは、大刀が権威を象徴する器物として認識されていたと考えられることから、当該期には、大刀の模造品である大刀形製品にも同様の意味合いが付与されていた可能性が想定される。

――――　キーワード
古墳時代　大刀形製品　消長　祭祀